

海域の概要

本港は、鹿島臨海工業地帯の海上輸送基地として昭和 44 年に開港した港です。大型船舶を対象として作られた掘り込み式港湾で、水深はほぼ一定となっています。



鹿島港

Specification

諸元

湾口幅：0.8 km

面積：5.18 km²

湾内最大水深：2.2 m

湾口最大水深：2.2 m

閉鎖度指標：2.84

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

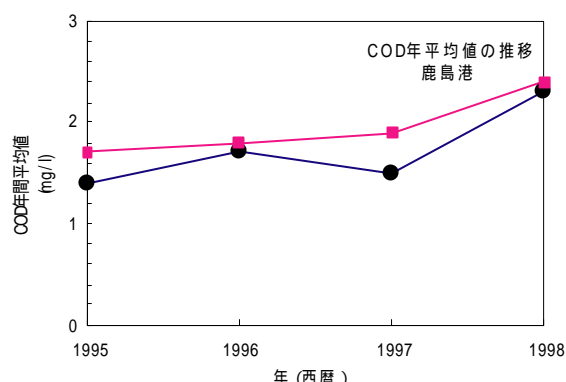
茨城県鹿島港南防波堤、北防波堤の延長線と南防波堤との交点と北防波堤の先端を結ぶ線、北防波堤及び陸岸により囲まれた海域。



環境

鹿島港は、茨城県鹿島灘の太平洋に面する港湾であり、臨海工業地帯が形成されており、港浜には重化学工業関係の工場や石油コンビナートが建っています。

港内の水質は良好とはいえ、COD 年平均値は1.5～2.5mg/l程度となっており、年々高い値を示す傾向にあります。



自然

鹿島港は、茨城県東南部の北は大洗町那珂川河口から、南は利根川河口に至る延々 70km のゆるやかな曲線をなす鹿島灘の中央よりやや南に位置しています。

鹿島港には湾口の鹿島港魚釣公園と湾奥の港公園があるほか、港内の堤防や岸壁はつりをする人が多く、クロダイ、メジナ、メバル、スズキ、フッコ、カサゴ、マゴチ、カレイ、キス、アナゴ、アジ、サバなどを釣ることができます。



鹿島港魚釣園

文化歴史

鹿島の歴史は、約 1400 年前に鹿島神宮が造営されて以来、文化、政治の中心として発展し、船運による輸送の全盛時には利根川、常陸川及び北浦沿岸の要所において聚楽が盛達しましたが、交通形態の変化により、次第に衰退しました。その後、利根川、北浦、鹿島灘により三方を囲まれた陸の孤島に、昭和に入って神宮橋が架橋され、昭和 36 年の「鹿島臨海工業地帯造成計画」により鹿島港の事業化が決定し、現在の掘込式港湾として鹿島港が建設されています。

産業

鹿島港の外国貿易貨物主要品項目(1991年)は、輸出品では1位鉄鋼、2位化学薬品、3位石油製品、輸入品では1位鉄鉱石、2位原油、3位石炭となっています。

鹿島港は、鋼・石油等の基幹産業コンビナートが立地する鹿島臨海工業地帯の海上輸送基地として昭和 44 年に開港し、原材料や製品の海上輸送基地として重要な役割を担ってきました。近年、東関東自動車道が開通し、さらに、成田と筑波研究学園都市を結ぶ首都圏中央連絡自動車道の整備も進められています。



鹿島航路

このような交通網の整備と背後の経済的発展を背景として、鹿島には、東京湾岸からの企業の移転・進出が相次ぎ、これまで東京湾で取り扱われていた一般公共貨物が急増し、首都圏の新しい物流拠点として注目されています。特に平成 8 年に鹿島港初の外国航路となる東南アジア RORO 航路が開設されて以来、現在までに中国華南地域や香港・台湾・東南アジア・韓国との定期 コンテナ航路が開設されています。